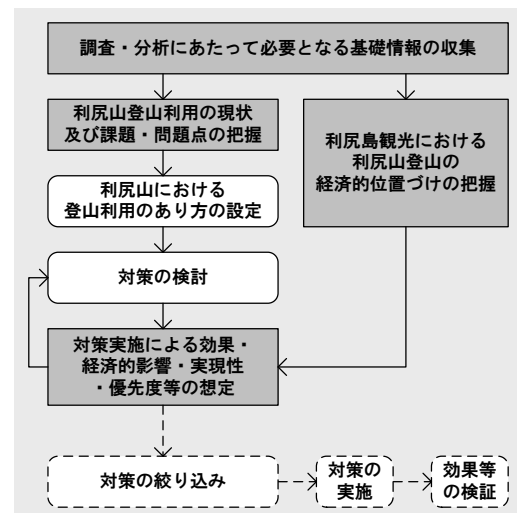
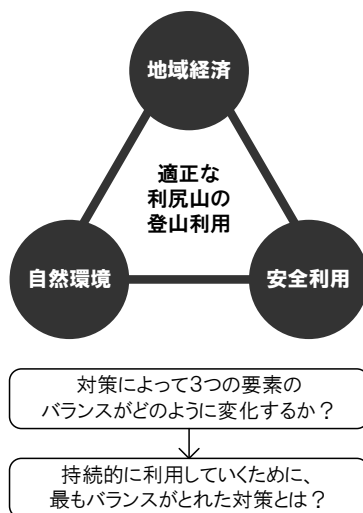


## 平成 20 年度調査・検討の概要

## ■ 背景・目的

- 利尻山は、登山利用による人為的影響や自然要因によって、急速に土壌浸食と崩壊が進行しているが、山体が火山性の脆弱な地質で構成されているため、登山道整備などのハード面のみでの抜本的対策は難しく、ソフト対策をあわせて実施することが不可欠である。
- 利尻山の自然環境の持続的な保護と利用を図るために、利尻山の登山利用のあり方を定めた管理方針（案）をとりまとめることを目的とした。

## ■ 調査・検討の内容



## ▼想定されるソフト対策にあたり必要な調査（資料調査及びヒアリング調査）を実施

- 登山利用状況調査
  - 利用動向調査
  - 登山計画書統計、入山者数カウント調査、観光関係資料、既存登山道調査報告書等による登山者の構成や利用動態等の分析
  - 意識調査
  - 登山者アンケートおよび、地元宿泊業者、地元登山愛好家、旅行代理店、登山ガイド等への聞き取り調査による登山利用における課題の分析
- 登山利用の社会的経済的影響調査
  - 上記の資料に加え、入り込みデータ等既存観光関係資料を分析、並びに登山者の利尻島内における行動形態、消費性向などについて、関係機関への聞き取り調査を行い、登山利用の社会的経済的影響について調査

## ▼3回の検討会（うち1回は実際に利尻山に登り検討）を開催

- 検討会は、利尻山の現状の課題について認識を共有化することから始め、その後、これまで行ってきた対策の不足点の洗い出しと、対策についての案出し等によって検討

## ▼「地域経済」、「自然環境」、「安全利用」の3つの要素に着目

- それぞれが最もバランスよく保たれた状態が「適正な利尻山の登山利用」につながるの考え方で、様々な対策について検討

- ◆ 引き続き検討を継続するとともに、優先度の高いものから対策の詳細を具体化して「利尻山登山道等維持管理連絡協議会」に提案し、実施可能なものについては協議会の活動に反映させていくこととして整理した。

## ■ 管理方針案

- 安易・危険な登山の防止
- 自然崩壊の進行及び利用による登山道荒廃の進行への対応方針の検討
- 「利用のあり方」も含めた登山利用にかかる協議・管理体制の強化
- 登山道の維持・補修・整備や利尻山の環境保全にかかる費用・人材確保の検討
- 利尻山固有の基礎データの蓄積
- 各種情報共有・発信のしくみの検討
- 利尻山以外の島の魅力の発掘・活用の検討

## ■ 今後の方向性

- 利尻山の自然環境だけでなく、利尻島全体の中での利尻山の位置づけを考える視点を持つことが必要である。
- 地域住民や登山者など多くの人と利尻山の課題や固有の事情について認識を共有し、理解を深める必要がある。

### 利尻山に対する地域ビジョンの明確化

- 地域の共通認識を確立するとともに、より多くの主体からの協力を得るために、利尻島全体の中での利尻山に対する地域の考え方を明確にする。

視点（キーワード）：「固有性」、「関連（連環）性」、「持続性」

### 対策の具体化

- 緊急性が高く取り組みやすい、と判定された対策案について、協議会との連携を深めながら、内容、実施方法、実施結果の検証方法等を具体化し、実施可能なものから実行する。

### 検討内容の周知

- より多くの人に取り組みを認識してもらうために、登山者、関係機関・地域関係者、島民、山岳関係者等に向け、検討会での検討内容及び検討経過等について情報発信を行う。

### 利尻山登山道等維持管理連絡協議会との連携強化

- 検討内容についての情報提供や意見交換のレベルから協議会との連携を深め、「利尻山登山利用検討会」を登山利用のあり方についての様々なアイデアとその実現方法を検討する専門組織とすることを検討する。